

春 出 遺 跡

—玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2021

玉名市教育委員会

序

玉名市は、熊本県北西部の菊池川下流域に位置し、旧石器時代からの長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線を軸に県北部の経済・観光ならびに教育・文化の拠点として、更なる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会では、様々な開発事業と埋蔵文化財発掘調査の円滑な調整のため、埋蔵文化財行政の充実に努めているところです。また、その成果の公開および活用を通じて広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、集合住宅建設に伴い実施した玉名市中字徳丸に所在する春出遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が、文化財に対する理解の一助となり、また学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたりましては、各方面で多くの方々に多大なご理解とご協力を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

令和3年1月29日

玉名市教育委員会
教育長 福島 和義

例言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和元年度に実施した熊本県玉名市中字徳丸に所在する春出遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘作業は、玉名市教育委員会が実施し、田熊秀幸が担当した。
3. 発掘作業における遺構実測および写真撮影は、田熊が行った。
4. 挿図に記載している座標値は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記し、世界測地系第Ⅱ座標系に基づいている。
5. 整理作業は、玉名市文化財整理室で行った。
6. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
7. 本書の執筆および編集は、中村安宏が担当した。

I . はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は、熊本県玉名市中字徳丸 1460 番 1 において、集合住宅建設が計画されたことに起因する。建設計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である春出遺跡の範囲内に所在していたため、令和元年 7 月 2 日付けで、文化財保護法第 93 条（以下、93 条）の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が行われた。令和元年 7 月 8 日、計画地において確認調査を実施した結果、時期不明の柱穴 2 基と土坑 2 基が確認された。遺構が確認された範囲は、建設工事により掘削が予定されており、工事主体者等との協議の結果、計画変更による埋蔵文化財の保存が不可能であったため、遺構が損壊される範囲（北側建物予定地・南側駐車場予定地）227.5㎡を対象として本調査を実施し、遺構の記録保存を行うことで合意した。その後、93 条を熊本県教育長に進達し（令和元年 11 月 15 日付け玉市教文第 165-1 号）、工事着手前に発掘調査を実施すべき旨通知がなされた（令和元年 11 月 21 日付け教文第 1821 号）。その後、令和 2 年 1 月 7 日付けで工事主体者と玉名市教育委員会との間で、埋蔵文化財発掘調査にかかる協定および委託契約を締結した。現地での発掘調査は、令和 2 年 1 月 21 日～2 月 20 日の期間において実施した。その後、令和 2 年 6 月 5 日付けで報告書作成に関する委託契約を締結し、令和 3 年 1 月 29 日に報告書作成を完了した。

2. 調査の体制

発掘作業および報告書作成は、下記の体制により実施した。

発掘作業（令和元年度）

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 池田誠一
調査総括	教育部長 西村則義 文化課長 松田智文 文化課長補佐兼文化財係長 田中康雄
庶務担当	技術主任 田熊秀幸
発掘調査員	技術主任 田熊秀幸
発掘作業員	緒方雄二 谷口洋介 中島明子 村上厚生

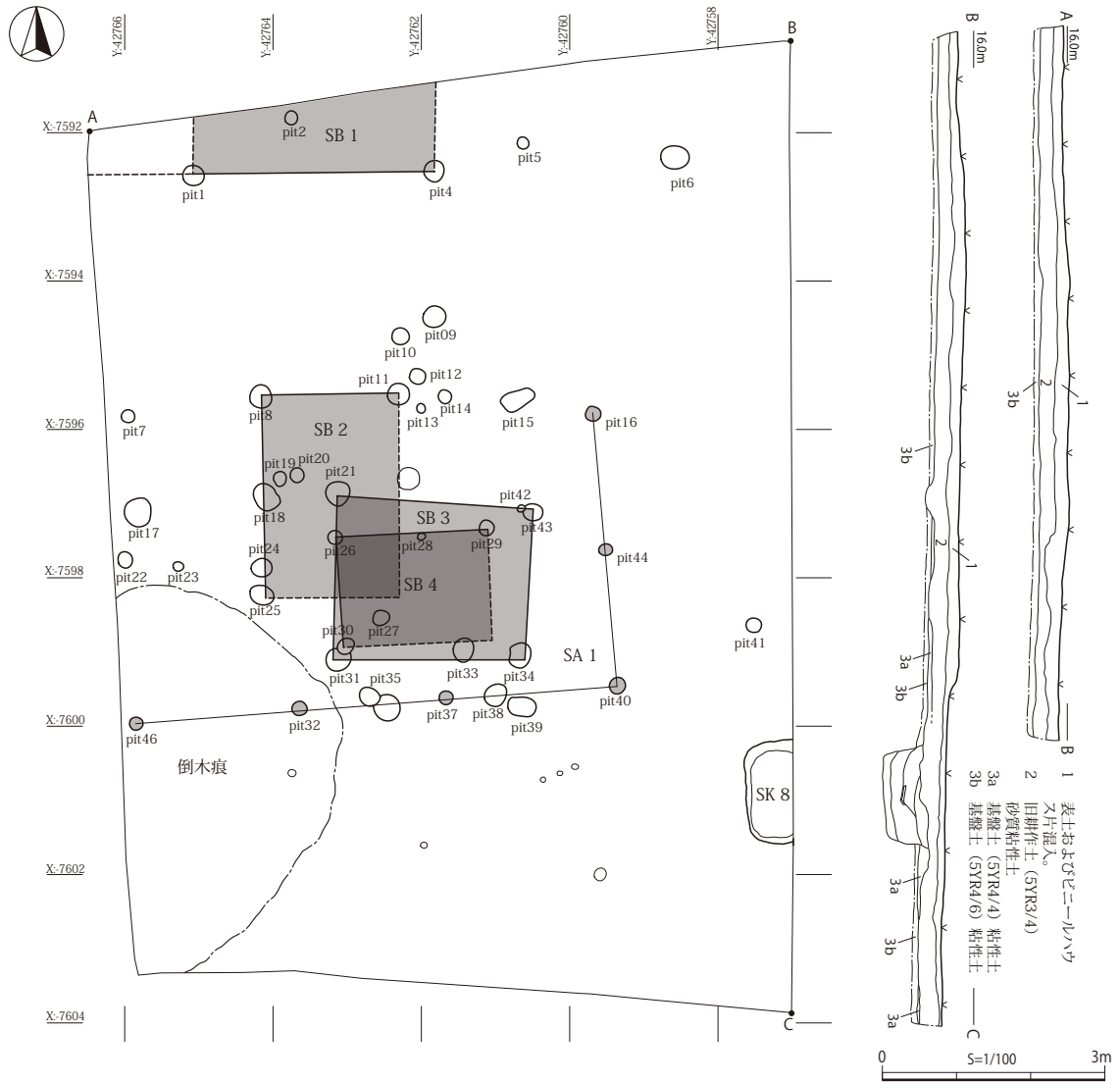
報告書作成（令和 2 年度）

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 池田誠一（令和 2 年 12 月 3 日まで） 教育長 福島和義（令和 2 年 12 月 4 日から）
調査総括	教育部長 西村則義 文化課長 伊藤恵浩 文化課長補佐兼文化財係長 田中康雄
庶務担当	主査 中村安宏
編集担当	主査 中村安宏

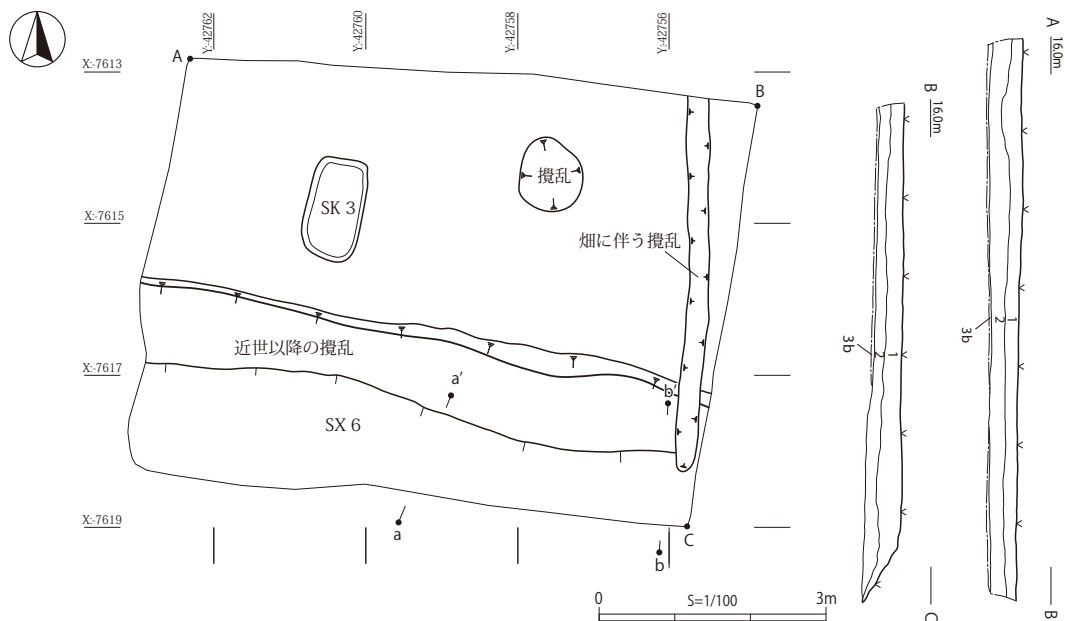
Ⅲ．調査の記録



第2図 発掘調査地全体図



第3図 北側調査区遺構配置図 (建物予定地)



第4図 南側調査区遺構配置図 (駐車場予定地)

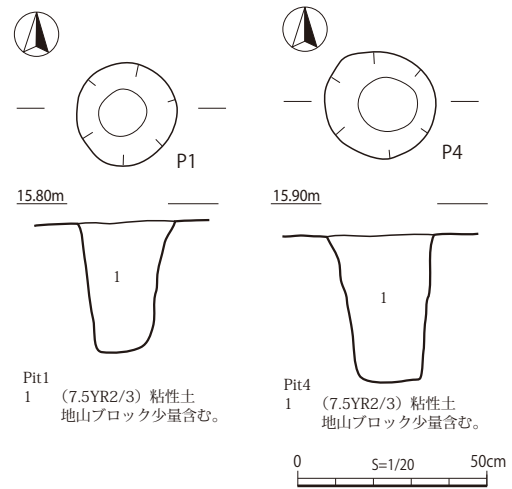
1. 検出遺構

今回の調査では、時期不明の掘立柱建物跡 4 棟、塀または柵跡、堀状落ち込みおよび土坑 2 基、その他ピット複数を検出した。

【北側調査区】

SB 1 掘立柱建物跡 (第 3・5 図)

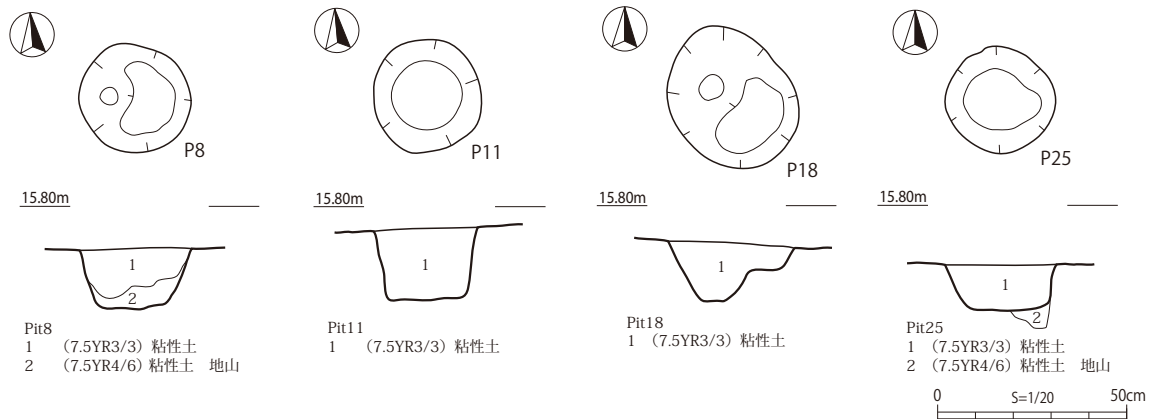
北側調査区の北西部に位置し、遺構検出面の標高は 15.7 m 前後である。規模および平面形は、南東部の東西方向に柱穴 2 基を検出したのみであるため不明である。検出した 2 基の柱間は約 3.3 m を測る。柱穴は直径 0.3 m 前後で、検出面からの深さは 0.3 ~ 0.4 m 前後である。



第 5 図 北側調査区 SB 1 平・断面図

SB 2 掘立柱建物跡 (第 3・6 図)

北側調査区の中央部からやや西よりに位置し、遺構検出面の標高は 15.7 m 前後である。規模および平面形は、1 間×2 間の長方形を呈し、長軸を南北に採る。柱穴は直径 0.3 m 前後で、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.2 m 前後である。



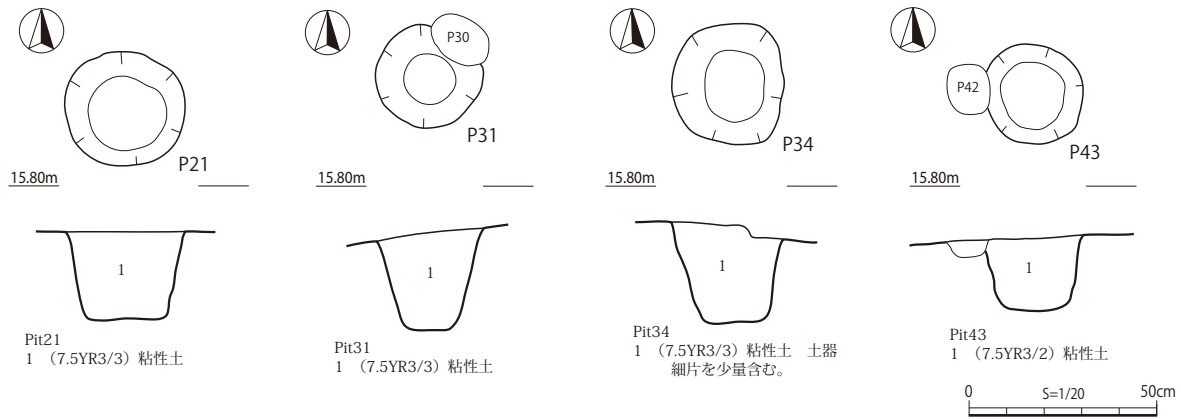
第 6 図 北側調査区 SB 2 平・断面図

SB 3 掘立柱建物跡 (第 3・7 図)

北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は 15.7 m 前後である。規模および平面形は、1 間×1 間の長方形を呈し、長軸を東西に採る。柱穴は直径 0.3 m 前後で、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.3 m 前後である。

SB 4 掘立柱建物跡 (第 3・8 図)

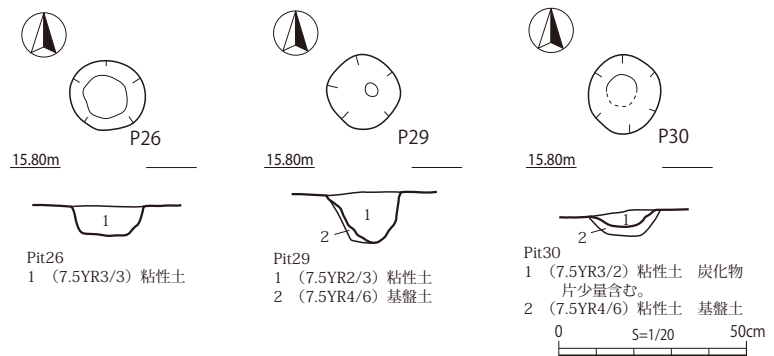
北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は 15.7 m 前後である。規模および平面形は、1 間×1 間の長方形を呈し、長軸を東西に採る。柱穴は直径 0.2 m 前後で、検出面からの深さは 0.1 m 前後である。



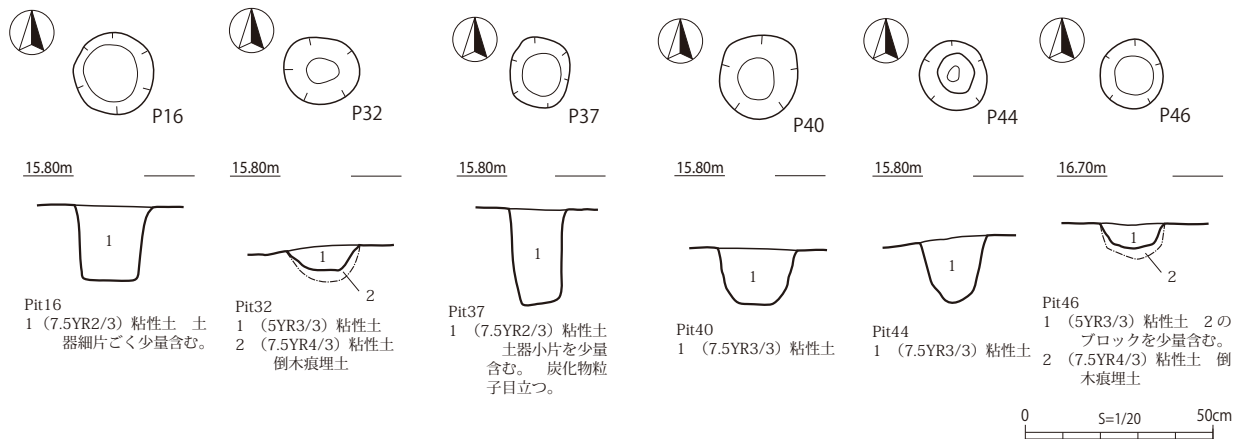
第7図 北側調査区 SB 3 平・断面図

SA 1 塀または柵跡 (第 3・9 図)

北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は 15.7 m 前後である。規模および平面形は、南北方向 2 間・東西方向 3 間の L 字形を成している。柱穴は直径 0.2 m 前後で、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.2 m 前後である。



第8図 北側調査区 SB 4 平・断面図



第9図 北側調査区 SA 1 平・断面図

SK 8 土坑 (第 3・10 図)

北側調査区の南東部壁際に位置し、遺構検出面の標高は 15.6 m 前後である。規模および平面形は、東側が調査区外であるため不明であるが、長軸長 1.4 m、短軸長 0.8 m の小判形を呈す。遺構検出面からの深さは 0.5 m 前後である。埋土 3 層上面から近世陶磁器片、加工跡がある凝灰岩および石等が出土した。

【南側調査区】

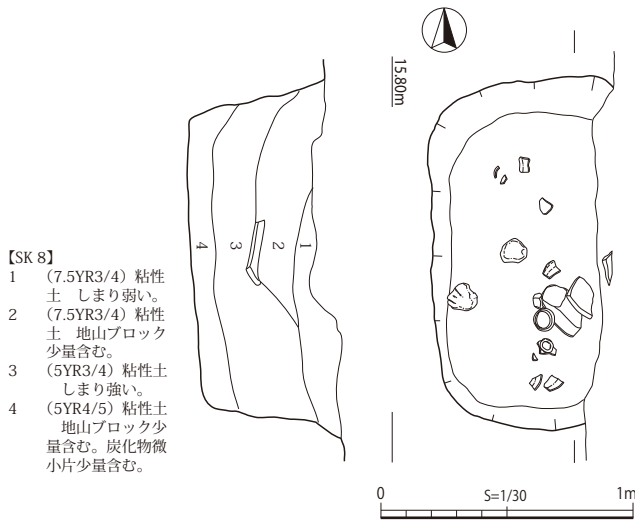
SK 3 土坑 (第 4・11 図)

南側調査区の中央部よりやや西側に位置し、遺構検出面の標高は 15.1 m 前後である。規模お

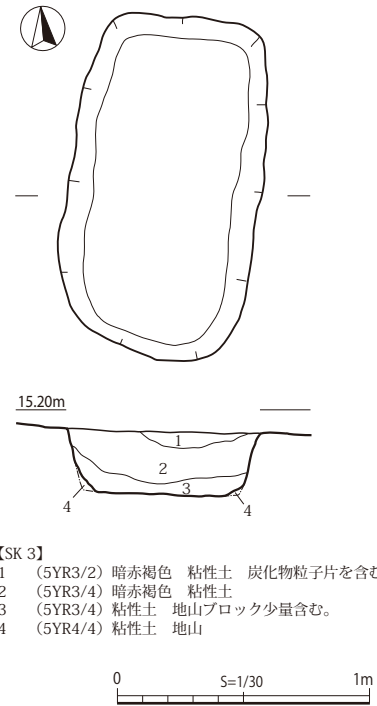
よび平面形は、長軸長 1.4 m、短軸長 0.8 mの小判形を呈す。遺構検出面からの深さは 0.25 m 前後である。

SX 6 堀状落ち込み (第 4・12 図)

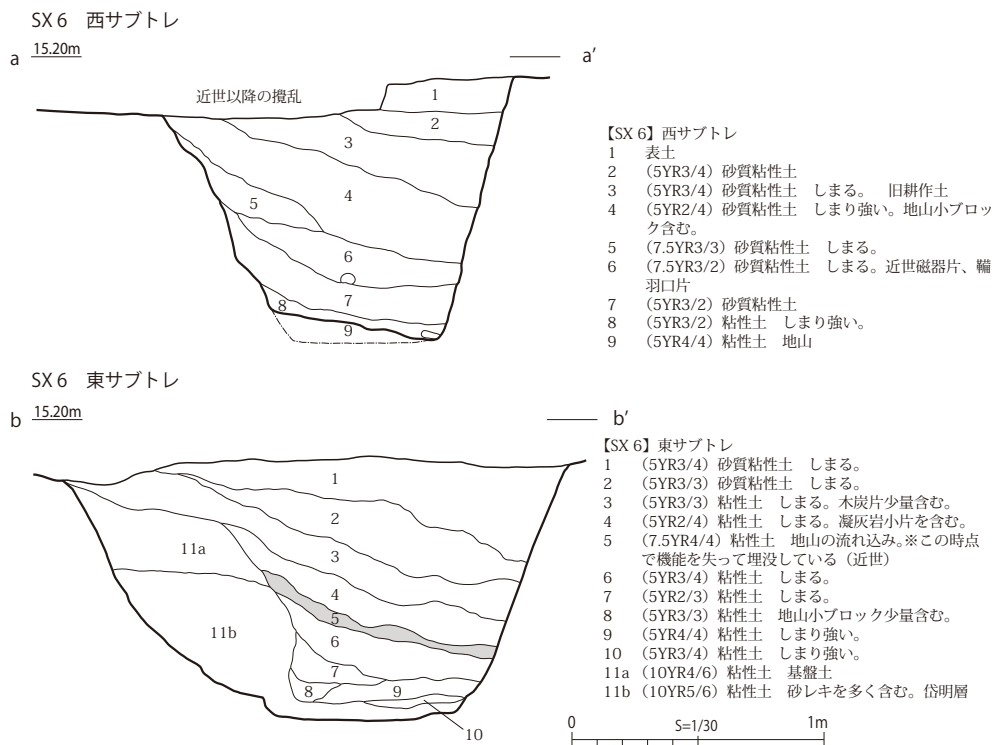
南側調査区の南部に位置し、遺構検出面の標高は、15.0 m 前後である。規模は調査区内で確認できる範囲では、長さ 7.5 m、幅 1.5 m、深さ 1.0 m である。埋土上面を近世以降に攪乱されている。地山ブロックが多量混入する埋土 5 層を境にして、堀としての機能を失い埋没している。西サブトレ埋土 6 層から近世陶磁器片および^{ふいて}轆羽口片が出土した。



第 10 図 北側調査区 SK 8 平・断面図



第 11 図 南側調査区 SK 3 平・断面図



第 12 図 南側調査区 SX 6 断面図

2. 出土遺物



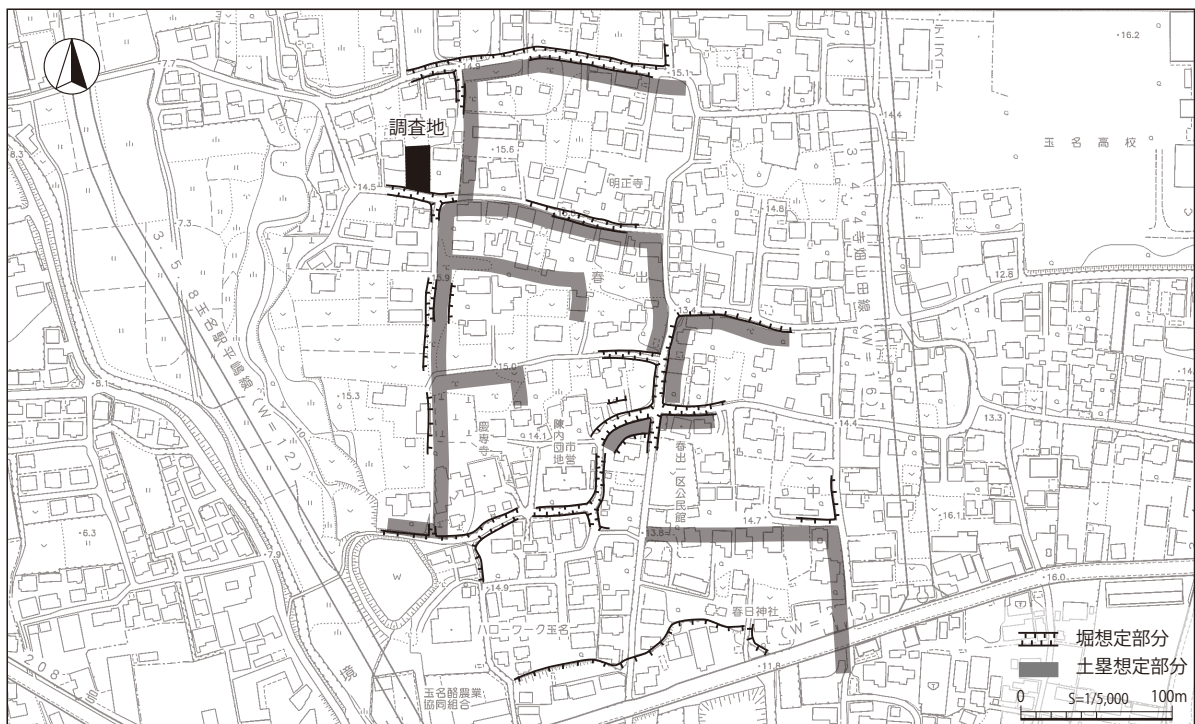
SK8 出土遺物



SX6 出土遺物

Ⅳ. 総括

当遺跡は、境川左岸の低台地上に位置しており、弥生・古代・中世の包蔵地とされているほか、付近一帯は中世城館跡である「中村館跡」の範囲としても推定されている。今回の発掘調査では、時期不明の掘立柱建物跡が4基検出され、これらの南側においてL字状に並んで検出された柱穴群は、塀または柵列跡の可能性もある。また、時期が明確でない堀状落ち込みも検出され、埋土からは近世陶磁器片が出土しており、最終的な埋没時期は近世とみられる。これらの遺構は、付近一帯の状況および過去の調査等から中世の「中村館跡」に関連するものである可能性が高く、城館が廃絶し、耕地化される過程を考える上で貴重な成果となった。土坑の時期については、SK8の埋土中層から近世陶磁器片などが出土しており近世と判断した。



第13図 中村館想定図

筈友雅史 2004「18 中村館跡」『玉名市文化財調査報告書Ⅱ』玉名市文化財調査報告第13集 玉名市教育委員会 126項を一部改変



表土掘削状況



人力掘削作業状況



北側調査区遺構検出状況（南から）



南側調査区遺構検出状況（南から）



北側調査区完掘状況（南から）



南側調査区完掘状況（南から）



北側調査区 SK8 遺物出土状況（西から）



南側調査区 SK3 完掘状況（南から）

報告書抄録

ふりがな	はるでいせき							
書名	春出遺跡							
副書名	玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	中村安宏							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138							
発行年月日	2021年1月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
はるでいせき 春出遺跡	くまもとけん 熊本県 たまたまし 玉名市 なか 中 あざとくまる 字徳丸	43206	182	32° 55′ 50″	130° 32′ 33″	20200121 ～ 20200220	227.5	集合住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
春出遺跡	包蔵地	中世 近世		掘立柱建物跡 塀または柵列跡 土坑 堀状落ち込み		陶磁器片		掘立柱建物跡のほか、外側に塀または柵列跡を検出し、また、堀状落ち込みが検出された。
要約	春出遺跡は、境川左岸の低台地上に位置しており、弥生・古代・中世の包蔵地とされているほか、付近一帯は中世城館跡である「中村館跡」の範囲としても推定されている。今回の発掘調査では、時期不明の掘立柱建物跡が4基検出され、これらの南側においてL字状に並んで検出された柱穴群は、塀または柵列跡の可能性もある。また、時期が明確でない堀状落ち込みも検出され、埋土からは近世陶磁器片が混入しており、最終的な埋没時期は近世とみられる。これらの遺構は、付近一帯の状況および過去の調査等から中世の「中村館跡」に関連するものである可能性が高く、城館が廃絶し、耕地化される過程を考える上で貴重な成果となった。							

玉名市文化財調査報告 第47集	
春出遺跡	
—玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—	
令和3年1月21日 印刷	
令和3年1月29日 発行	
編集	玉名市教育委員会
発行	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138
印刷	有限会社 玉名民報印刷
製本	〒865-0015 熊本県玉名市亀甲 261 TEL 0968-72-2535 FAX 0968-72-4648